公益社団法人　日本図書館協会　図書館情報学教育部会

会　　報　第 140 号

2026（令和 8）年 5 月 12 日発行　編集・発行　図書館情報学教育部会（ISSN 2189-6194）

目　次

2025 年度　第 2 回研究集会報告 ……1
テーマ：「初期キャリア教員交流会～新たなアイディアと仲間を見つけよう～」
初期キャリア教員交流会報告　岡田大輔（尚絅大学） ……1
参加者の感想　百鳥直樹（久留米大学） ……5
参加者の感想　山田美幸（熊本学園大学） ……5
参加者のアンケートから ……6
2025 年度　図書館情報学教育部会第 3 回幹事会議事要旨 ……7
2025 年度　図書館情報学教育部会第 4 回幹事会議事要旨 ……8
2026 年度　図書館情報学教育部会総会および第 1 回研究集会開催のご案内 ……9

2025 年度 第 2 回研究集会報告

初期キャリア教員交流会報告

岡田　大輔
（尚絅大学）

1 概要

2026 年 3 月 1 日（日），13 時から 16 時 30 分まで，日本図書館協会図書館情報学教育部会の主催で 2025 年度第 2 回研究集会「初期キャリア教員交流会～新たなアイディアと仲間を見つけよう～」が行われた。対面および Zoom のハイブリッド形式で行われ，図書館情報学および司書・司書教諭課程に関わる“教員歴およそ 5 年以内の方” を主な対象とし，教育実践上の悩みや工夫を共有し，交流を深めることを目的として実施された。

教員歴およそ 5 年以内の方 14 名（オンライン 11 名＋現地 3 名）を含む，42 名の申し込みがあった。

当日の JLA への入会者も含めて，教育部会員の希望者には後日「図書館情報学教育 FD プログラム修了証」が発行された。

2 お悩み共有セッション

ライトニングトークの募集の後，まずこの会の中心企画の「お悩み共有」が 50 分程度行われた。参加者から申し込み時に寄せられた悩みなどを匿名で紹介するとともに，教育部会の何人かが回答した。参加者のチャットも含めて活発な意見交換が行われた。

2.1 非常勤講師への教科書献本

まずは，非常勤講師でも，版元へ直接依頼したり大学の教科書販売を経由したりして，教科書の献本が受けられることが共有された。チャットでは，専任教員が代行する場合や，受講者数によって対応が異なる事例も紹介された。

2.2 教材の更新頻度

前年の教材をどこまで作り変えるべきかについては，「誤字や最新情報の修正は行う」一方で，「基本的なことはむしろ変更しないようにしている」「テストを採点して，次年度の教える順番を入れ替える」が提案された。

2.3 過重労働と資料共有

はじめて専任になり，いきなり多くの授業を抱えて睡眠不足になるという悩みに対しては，「他の教員からパワーポイント資料を譲り受けそのまま授業をする」という現実的な助言がなされた*。これに対して，チャットでは，「他人が作成した資料で授業をするのは難しい」「特定の教科書に基づいたパワーポイントを共有することは著作権上の問題がある」と指摘された。対応策として，「引用の形式をとる」「受講者限定とする」「トピックのみ書かれたスライドとする」などが提案された。

2.4 専門外科目の担当

ここでは最初に“専任教員が自分の専門分野を教え，専任教員の専門外の分野はそれに詳しい人に非常勤として来ていただく。非常勤の先生が自身の専門外の科目を持つべきではない” が理想・建前だが，現実はそうなってないことが説明された。

その上で，「専門外の科目を担当することは司書課程全体を把握するのに役立つと捉え直す」「専任にしても非常勤にしても，間違いは必ず起き，間違えたら修正し謝罪すればよい」「複数の教科書を比較して適切と思われる範囲で教える」が提案された。ただ，「はじめて担当する科目や専門外の科目では，1 つの教科書に沿って進めるほうが失敗を防げる」との意見もあった。

チャットでは「学生の負担を軽くするために教科書を指定しないこともあったが，今は卒業後や講義の内容を考えて指定している」「自分が一番共感できるものを教科書と指定すればよい」「教科書として複数指定しても構わないが，授業で必ず使う」などが出た。

2.4.1 司書教諭科目の担当

司書教諭の経験なしで司書教諭科目を担当する不安は多くの参加者から出された。「ここでも同様に他の先生の教材で授業を行う」「学校現場を意識する」「司書課程より内容を相当減らす」「司書課程のパスファインダー作成を，“総合的な学習の時間などで使えるパスファインダー” 作りにアレンジするなど，司書課程の内容を司書教諭課程に応用する」が提案された。

チャットでは「教科書を読み込む」「放送大学の授業は参考になる」「学校図書館系のシンポジウムに参加したりして学び続ける」が有効だと指摘された。

2.4.2 図書・図書館史

図書・図書館史では，「新藤透先生のいくつかの本からトピックを選ぶ」「歴史学の目指すものからずれるものの，現代の図書館運営の教訓になる話につなげる」「戦後の割合を増やし，“格子なき図書館” のビデオなども活用する」が提案された。

2.5 設備が足りない

情報検索の授業で Japan Knowledge 等の有料データベースがない環境では，「新聞データベースやコトバンク等の無料データベースで代替するしかない」の他，「検索式を重視した授業であればデータベースによる差は少ない」とも提案された。また，データベースは契約されていても同時アクセス数が足りない場合は，「グループ分けをして時間差で利用する」ことや，「大学図書館に依頼することで一時的にアクセス数増やすこともできるかもしれない」ことが報告された。

また，終了後，「多くの公共図書館では予算の関係で Japan Knowledge 等は導入できておらず，現場の限られた情報資源でレファレンスに応えてみる練習と説明している」とも伺った。

2.6 生成 AI への対応

生成 AI を使用したレポートへの対応については，「レポート形式から対面式の記述試験に変更し，AI 利用の余地をなくす」「シラバスで大学の方針や利用ルールを明示する」「AI 特有の記述（架空の文献引用等）がある場合は，模倣

---

* 他の教員のパワーポイントで授業をする提案をしたのはこの報告の筆者（岡田）です。私のスライドは特定の教科書に基づいているところは少ないはずで，コロナ禍で YouTube で授業をする際に著作権を意識し引用を入れるなど修正しました。そのため，自由に改変して授業で使ってもらって構わないので，興味がある方は連絡していただければと思います。

として扱う」といった対応策が提案された。

チャットでは，「情報検索の授業で生成 AI を検索として用いる学生」が紹介された。一方で，「生成AI を実践例として紹介し，図書館サービスへの導入可能性を議論させる」などの試みも紹介された。

2.7 グループワーク

グループワークについては時間の関係で十分扱えなかったが，「予算書の分析」「ペアでTRC の分類と NDL の分類を比較」「発表内容を動画でまとめる」「司書教諭であれば授業案をもとに図書館メディアの活用を検討する」が提案されつつ，無理に行う必要はないとの考えも提示された。

チャットでは，グループワークを多用する教員もいる一方，「大学で“アクティブラーニング”をしないといけないことになっているが，やみくもにするのは学生にとって不利益になる」「受講人数が多い場合や実施の質が担保できない場合は慎重に行うべき」「高等教育におけるアクティブラーニング/PBL の議論を踏まえて議論すべき」との意見が出た。

2.8 短大教育の特殊性

短大での教育においては，時間割の密度や就活・国家試験を考慮し，課題の締め切りに工夫が必要だと報告された。チャットでは，司書課程においては，科目の受講順序を指定するといった，系統的なカリキュラムの設定がより困難であること，再試験など手厚い対応が求められることも指摘された。

2.9 課題を出さない学生

最終回まで出席しながら課題を出さない学生への対応として，「ディスグラフィア（書字障害）を念頭に置きつつ，口頭試問などによる代替の課題も考えられる」「督促を行うことは問題ない」と提案された。しかし，合理的配慮を行うのは大前提として，「資格取得の観点から，締め切りを守れないのを報告できないのは司書として困る」「アカデミックスキルの問題で所属大学での支援が必要」との考えも出された。

また，チャットでは，「手書きのレポートも認めている」「PDF 形式での保存ができず提出できなかった」も報告されつつ，「情報スキルを学ぶ授業はあり，あまり斟酌してはいけない」との考えも出された。

2.10 受講生の減少への対応

受講生の減少に対し，「“司書課程を情報リテラシーを身につける最高の機会”とアピールする」「共通科目にして履修のハードルを下げる」「学内で履修できる学科を拡大する」などの戦略が提案された。チャットでは，「先輩の体験談を Web サイトに掲載したら増加した」との報告もありつつ，「オープンキャンパスでの紹介，ガイダンスでの強調，5 限・6 限や集中講義にするなどに取り組んできたがなかなか難しい」とも報告された。

2.11 専任化に向けた助言

専任になるための秘訣としては，論文数や教歴に加え，「出ている公募には積極的に応募する」「図書館情報学者以外に向けて書く」「運の要素がある」と示された。チャットでは「教歴や担当科目は重視される」「今専任の人は，教務委員や入試委員などの学内の経歴も大切」「前任の人と似た人を求めていることは多い」「研究だけの人よりは，地域連携ができる人が求められる」「不備がない書類が書けるかも見られている」「さまざまな“縁”も大切」「その点でも図書館協会等の学会・団体へ参加してほしい」が出された。

3. ライトニングトーク・グループ情報交換

3.1 ライトニングトーク

20 分程度ライトニングトークが行われた。

土屋深優氏（秋草学園短期大学）からは授業実践と工夫が報告された。チャットでは，「毎回コメントを書いて返却されているのはすごい」「時間が余ったとき用のネタや動画を用意しておくのが心の平安にも良い」などの反応があった。

徳田恵里氏（大阪芸術大学）からは，芸術系の大学に合わせた司書課程の運用が紹介された。

チャットでは「公共図書館における TSUTAYA 分類の是非」が紹介された。川瀬綾子，北克一の一連の研究（「「ツタヤ図書館」の資料区分を検証する」）を資料としているとのことである。

3.2 グループ情報交換

その後，グループ情報交換として，zoom のブレイクアウトルーム機能を用いて小グループでさらに議論を深めた。まずはランダムに振り分けられたグループとし，2 回目は初期キャリア教員のグループとその他のグループと分けて行った。

3.3 全体共有

最後の全体共有では，連絡が伝わらない学生には「見ていなかったら不利益を被ると伝え必ず確認するよう促している」と対応していると紹介されつつ，「大学のシステムから学生への連絡が多すぎて必要な情報が埋もれてしまう」問題も指摘された。

また，「卒業生の組織を構築する方法」「国立国会図書館デジタルコレクションを利用させたり他大学の図書館の見学に連れて行ったりすれば，学生は個人情報を提供する必要があるが，問題ないか」などが話題になった。

4. まとめ

終了後のアンケートは概ね好評であった。

4.1 悩みの共有ができ安心できた

他の方が同じことで悩んでいるということに安心したとの感想からも，初期キャリア教員が抱える孤独感や不安を共有し，わずかながらでも安心感を与えられたと捉えている。参加者が「無理しすぎない」「全部 1 人でやろうとしない」と思えるようになれば今回は成功だと考えている。

4.2 交流もできた

参加者どうしも含めたいろいろな人と交流できたのは良かったと考えている。小グループを 2 回，別の組み合わせで行ったことも好評であり，全体を通してチャットの発言も多かったと捉えている。

5. 継続して開催したいと考えています

このようなイベントをまた開催してほしいとの要望は多数寄せられた。「入会したい」「定期的にこのようなイベントがあれば入会を勧めやすい」との感想もあった。

岡田としては，このような会を継続して開催していくことから始めていければと考えている。今後，幹事の方々と調整する必要はあるが，年に 1 度ペースででも行っていくことで，図書館情報学教育の質の向上につなげていきたい。

6. 反省点

開催する上で反省し改善すべきところはたくさん見つかった。

6.1 各地を巡る

オンラインで十分に情報交換できたとの声もあったが，サテライト会場を望む声もあった。多数の会場を設けるのは難しいとしても，各地で順繰りに開催することはできると考える。

6.2 テーマをしぼる

お悩み相談の「率直な意見」は参考になったとの感想も頂いた。ただ，時間の関係もあり，具体的な授業の方法などの知識を伝えることはあまりできなかった。今後行うならば，「生成 AI に対応した授業」「グループワークの設計」「さまざまな評価方法」「学生対応」など，ある程度テーマを設定して開催する必要があるだろう。

また，教育方法学など高等教育の専門家からの知見を求める声もあった。岡田のインストラクショナル・デザインの知識を用いた説明の後，専門家を招いた研修を行っていくことが考えられる。

6.3 ディスカッションの時間を増やす

グループ情報交換や全体交流などのディスカッションの時間は足りず，他のグループで出た話を共有することはできなかった。グループの分け方も，初期キャリア教員を現場経験者とストレート研究者とさらに分けたり，エキスパートの方々も地域別にしたりなどできたとも考えている。

6.4 早めに決定し広報する

日本図書館協会のメーリングリストだけでなく，日本図書館情報学会など学会のメーリングリストも用いて，様々な人に届くよう広報した。ただ，会場が確定できるまで時間がかかったこともあり，日程が調整できず参加できない人がいた

可能性はある。また，案内文には対象に「(2) それ以外の方」を含め，誰でも参加できるようにしたつもりであったが，大学院生で授業は持っていないので遠慮したとの話も後に聞いた。そのため，「(1) 教員歴およそ5 年以内の方（年齢は問いません）/ (2) 非常勤講師の方 / (3) 修士課程・博士課程の大学院生の方 / (4) それ以外の方」と参加してほしい人は明示する必要があると考えられる。

また，ライトニングトークがどういうものか共有できていなかった点や，研究発表の募集もするべきだった点も改善すべきこととして残る。

7. 協力・参加してくださったすべての方に感謝いたします

多くの方から力添えを頂けて開催できました。また，あらためまして参加していただいた方に感謝いたします。

～参加者の感想～

百鳥直樹（久留米大学）

2026 年 3 月 1 日（日）に，日本図書館協会図書館情報学教育部会主催の「初期キャリア教員交流会～新たなアイディアと仲間を見つけよう～」が，熊本市の尚絅大学で開催された。私は JLA 非会員だが，会場校の岡田大輔先生からお誘いをいただき，本交流会に参加した。交流会では，司書課程および学校図書館司書教諭科目を担当する参加者同士が，各大学における課程運営，授業運営，学生対応に関する悩みや実践について，「ざっくばらんに」「楽しく」共有することができた。本稿では，交流会の中で特に印象に残った内容について述べる。

第一は，学生への対応である。課題提出に対するフィードバックの方法や，生成 AI を用いて作成された提出物への対応は，多くの先生が抱える悩みとして共有された。第二は，大学間に存在する教育環境の差である。特に，大学の規模や経営状況が，情報検索のための電子リソースや情報検索端末の整備状況に影響を及ぼし，その結果，各大学の司書課程科目の講義・演習の内容に差が生じていることは，深刻な課題であるといえる。第三は，司書課程履修者の減少（資格取得希望者の減少）である。この点については，中高生が職業としての司書の実態を知ることによって司書を目指さなくなっている可能性が指摘された。そのうえで，今後の対応として，司書資格が「図書館以外の場面でも活用できる」ことを積極的に訴求していくことや，学生の専攻領域と関連づけた授業を展開することなどについて，具体例を交えながら意見交換が行われた。

このほかにも，本稿では書ききれないさまざまな課題について共有がなされた。本交流会は「初期キャリア教員交流会」と銘打たれていたが，十年以上のキャリアを有する先生も多く参加されており，ベテランの先生の経験や助言に基づく貴重なお話を数多く，かつ気軽に伺うことができた。教員歴 4 年（非常勤 3 年，専任 1 年）の私にとって，本交流会は，今後の司書課程運営に活用できる情報を得るとともに，新たな「仲間」を得ることができた，大変有意義な機会となった。最後に，本交流会を企画いただいた日本図書館協会図書館情報学教育部会の皆さま，ならびに会場設営・進行をご担当くださった尚絅大学の岡田大輔先生に，深く御礼申し上げる。

山田美幸（熊本学園大学）

「教えて貰うと分かるならば，誰かに尋ねるほうが早い。悩む時間がもったいないよ。」

20 数年前に大学院を修了後，すぐに大学教員の道に入った私は，教える専門としての図書館の事はわかっていても，仕事の進め方についての知識はほぼなきに等しかった。大学組織に属しながらも，司書課程担当は自分 1 人。相談相手がいなくて日々悶々としていた（本当は相談相手を見つける努力をしていなかっただけかもしれない）。

その後，図書館員向けの某研修会に「学習者」として演習に参加してみたり（知人からは「大型新人参加者」と揶揄されたが）。また，MOOC で FD 関係の教材を視聴してみたり。教育能力向上のためならばと自分なりのやり方で勉強するも，独学の限界を感じるしかなかった。

今回私が研究集会に参加して思ったのは，「インターネット上にはアイディアの種はたくさん存在するし，オンライン会議を通じてざっくばらんなやりとりが容易にできて，便利になったなぁ。」である。例えば。講義準備に悩んで某動画サ

イトを検索したら，数あまたの大学が公開している FD 研修の動画を視聴できる。また集会当日には，オンライン越しで講義の創意工夫例を拝聴できて，感動ものであった。

当日私はオンサイトの参加であり，オンライン参加のための個人パソコンは持参しなかった。しかし，交流はオンラインの方が熱かった。 ブレイクアウトルームでの報告を聞いていたら，オンサイト参加したことをちょっとだけ後悔した。仕切り直して，オンサイト参加者にて研究集会「第２部」を行ったのは言うまでもない。

最後に。税金（例えば，確定申告）のこととか，書類作成のこととか，講義準備の手の抜き方（！）とか。もう少し話題提供してもよかったのかな？ 当方，方々の学会へのリアル参加「だけ」はしているので，お声がけいただければ，これ幸いにて。

～参加者のアンケートから～

回答数 27

質問 1. 部会員かどうかお聞かせください。

日本図書館協会図書館学教育部会の会員である 15

教育部会の会員ではないが，日本図書館協会会員である 5

日本図書館協会の会員ではない 7

質問 2. 研究集会のテーマ設定はいかがでしたでしょうか

適切であった 27

適切ではなかった 0

どちらとも言えない 0

質問 3. 研究集会のプログラムの設定はいかがでしたでしょうか

適切であった 27

適切ではなかった 0

どちらとも言えない 0

質問 4. 研究集会の内容はいかがでしたでしょうか

適切であった 27

適切ではなかった 0

どちらとも言えない 0

質問 5. 研究集会に関してご意見・ご指摘等（自由記述）

- 大変面白かったです。今後継続してもよいと思いました。
- とても参考になりました。ありがとうございました。
- 講義の進め方について，いろいろな先生の方法を知ることができてよかったです。
- 対面できず残念でしたが，オンラインでも十分に情報交換できて大変有意義でした。
- 引き続き継続してほしいと思います。リアルで各地でしてもらえるといいかも。
- とても貴重な機会でしたので，ぜひまた企画していただけたら嬉しいです。いろいろな方のお話が伺えて，とても勉強になりました。部屋の分け方はなかなか難しいですね。
- とても勉強になりました。ありがとうございました。
- 今思っている悩みを共有できて良い時間になりました。ありがとうございました。
- 各大学，地域の現状を知る良い機会となりました。
- 大変参考になりました。ありがとうございました。
- ほかの方が同じことで悩んでいるということに少し安心しましたし，アイデアやアドバイスも大変助かりました。ぜひ今後も同様の企画を継続していただければと思います。参加できなかった方にも，いくらか情報共有ができるとありがたいです。
- 役に立つ情報や事例をきくことができました。ありがとうございます。
- 各地の現状を伺うことができました。ありがとうございました。
- このような機会はもっとあっても良いと思いました。
- オンラインのほうもチャットでやり取りができ，ブレイクアウトルームでも 2 パターンの部屋でディスカッションできました。とても有意義な会であったと思います。ありがとうございました。
- 普段の授業を「これでいいのかな～」と思いつつも，かなり我流で行っていたところがありました。皆さんのお悩みを共有できて新たなヒントをたくさんいただけた気がします。これ，毎年やってほしいです！
- ディスカッションの時間が足りなかったように思います。また，他のグループの話を箇条書きでもよいの

で教えてもらいたかったです。今回の内容は，日ごろ相談する機会が少ない教員にとっても有益ですので，継続的に企画いただければ助かります。ありがとうございました。

- シラバス・教案・課題（小テスト）作成，授業評価について，参考になりました。
- 楽しく非常に為になりました。ありがとうございました。
- 司書講座講師の初任者向けということで，場の共有をさせていただいたことで，仲間がいると言う安心感が生まれました。教学事務出身者ということもあり，大学組織の観点で考えてみて，私たちが持っている不安は教務課や学習支援，或いは学生支援の方々とのコミュニケーション不足から起因するものが大半であると，経験からも感じました。特に資格科目で卒業要件や学科要件でないものは，重視されない傾向にあることも教務の時に時間割作成の経験からも理解はできていましたので，司書科目に関しても，専任の先生とのコミュニケーションが重要となることを改めて痛感いたしました。なんでも経験していることは役に立つことを，自分自身が体感しておりますので，キャリアサポートセンターでの経験を活かして，講義の中でも就職活動でどう役立ち，アピールできるのかというような話もするようにし，出来る限り司書資格に興味や関心を持ち続けて受講してもらいたいと考えています。
- 初期キャリアの先生はもとより，非常勤でご担当されている先生，ご退職された先生などいろいろなキャリアの方，いろいろな場所で教鞭を取っておられる方からお話が聞くことができる貴重な機会となり，また，自分の普段の授業について考えさせられました。ありがとうございました。
- とても有意義な会合だったと思いますので，ぜひ継続していただければと思います。その際にはサテライト会場の開設も視野に入れていただければと思います。教育方法論や高等教育論などの専門家からの知見提供があればなお良かったかと思います。
- 非常に有意義で有り難い会でした。定期的に行なっていただけるのであれば，これを糸口に JLA への入会もすすめやすくなるかと思います。
- 専任教員の方にもいろいろと率直な意見をいただけて，非常に参考になりました。また他の先生方の授業の進め方見習えるところは見習おうと思いました。今後も，あまり固定的ではないがある程度テーマを設定し，このような場を設けていただけると助かります。

以上

2025 年度　図書館情報学教育部会
第 3 回　幹事会　議事要旨

日時：2025 年 11 月 10 日（月）9:00～11:00
会場：ウェブ会議（Teams）
出席者：青柳英治，石井大輔，伊藤真理，泉山靖人，大谷康晴，岡田大輔，金井喜一郎，木幡智子，坂下直子，橋詰秋子
欠席者：なし　（以上，五十音順，敬称略）

議題

1. 事業計画

- 2026 年度の事業計画案と予算案を検討した。
- 2025 年度の予算執行の状況を確認した。

2. 第 2 回研究集会

- 開催時期，テーマ，参加対象者，構成，形態などを話し合い，大枠を決定した。

3. 「部会・委員会の今後のあり方」についての意見

・ 検討の結果，今回は意見を出さないことになった。

4. その他

・ 『部会報』139 号の内容と発行時期を確認した。

・ メーリングリストの管理状況,『日本の図書館情報学教育』の進捗を確認した。

・ 次回幹事会は,2026年1月下旬から2月上旬に開催予定。

以上

2025 年度　図書館情報学教育部会
第 4 回　幹事会　議事要旨

日時： 2026 年 3 月 19 日（月）13:30～15:20

会場： ウェブ会議（Teams）

出席者：青柳英治，石井大輔，伊藤真理，泉山靖人，岡田大輔，金井喜一郎，木幡智子，坂下直子，橋詰秋子

欠席者：大谷康晴　（以上，五十音順，敬称略）

議題

1. 第 2 回研究集会

・ アンケート結果の内容を確認した。

・ 反省点，評価点等を確認した。

2. FD プログラム修了証

・ 第 2 回研究集会での発行基準，方法等を検討した。

・ 今後の修了証の発行基準等を決定した。

3. 2025 年度事業報告

・ 作成した内容を確認した。

4. 第 112 回全国図書館大会石川大会

・ 開催する分科会の内容を確認するとともに，担当者を決定した

5. 2026 年度活動部会総会・研究集会

・ 活動部会総会の開催（予定）を以下のように決定した。

日時：6 月 6 日（土）13:00～14:00

場所：日本図書館協会会館

・ 第 1 回研究集会の開催（予定）を以下のように決定した。

日にち，開催場所は活動部会総会と同じ。

時間：14:15～16:00（予定）

担当者を決定した。今後，担当者を中心にテーマを検討する。

・ 第 2 回研究集会

担当者を決定した。今後，担当者を中心に日時，場所，テーマを検討する。

6. 部会報（140 号）

・ 発行時期（5 月上旬）と掲載内容を決定した。

7. 追悼記事掲載

・ 2 名の方について，執筆者，部会報への掲載時期を検討した。

8. その他

・ 伊藤部会長から 3 月 12 日開催の代議員総会の報告があった。

・ 次回幹事会は，5 月に開催予定。

以上

2026 年度 図書館情報学教育部会総会および第 1 回研究集会開催のご案内

2026 年度研究部会総会および第 1 回研究集会を開催します。

日時：2026 年 6 月 6 日（土）13 時 00 分～16 時 30 分

会場：日本図書館協会会館 2 階研修室（〒104-0033 東京都中央区新川 1-11-14）（オンラインによる参加も可能）

・ **図書館情報学教育部会活動部会総会（13:00～14:00）**

議題：2025 年度事業報告，2026 年度事業計画等

・ **第 1 回研究集会（14:15～16:30）**

テーマ：AI 時代に大学図書館員に求められること

趣旨：大学図書館では，オープンサイエンスへの対応やAI リテラシー養成に向けて，職員の基礎力を身につけることが必要である。大学図書館については，図書館司書養成課程での館種として射程外ではあるが，働く場が多様化していることや，「図書館が拓く未来の学びと地域社会（報告書）」（令和 8 年 3 月 17 日）で館種を越えた連携の一つとして言及されていることなどもふまえる必要がある。また，いくつかの司書養成課程では幅広い専門家の人材養成を目指している。

そこで今集会では大学図書館に着目し，学校図書館から連続し，かつ地域と連携しながら，”民主的で持続可能は社会の実現”を目指す個人の育成を支援する大学図書館員の養成について考えたい。当日は，大学図書館および公共図書館を通じて経験豊富な講師の方々から現場での課題と養成での実践についておはなしいただく。

◆プログラム

14:15-14:25　企画趣旨説明

14:25-15:05　講演：檜原　啓一氏（大阪大学外国学図書館／箕面市立船場図書館）

「大学図書館・公共図書館双方の経験からの司書養成課程への提案」

15:05-15:45　講演：吉植　庄栄氏（東北学院大学文学部）

「大学図書館の取り組みを踏まえた司書養成課程における授業実践」

〈休憩〉

16:00-16:30　意見交換

◆参加費：無料

◆事前申込（申込〆切：6 月 4 日 23:59）

申込フォーム：https://forms.gle/a3iDpgPUh9ZSfpf58

※部会員の方は活動総会を欠席される場合も，上記フォームから委任状の提出をお願いします。

※オンライン参加を希望される場合も，上記フォームからお申込みください。

以上

編集担当　〒271-8555　千葉県松戸市岩瀬 550　聖徳大学文学部　石井大輔

Tel. 047-365-1111（代）　E-mail：ishii.daisuke@wa.seitoku.ac.jp